

KITA

Kitakyushu
International
Techno-cooperative
Association

KITA ニュース

第20号

2004
July
No.20

随想

What's New (KITA理事会状況)

ニュース&レポート

わが社の研修協力記

講師の研修への熱意

KITA研修コースの紹介

トピックス



JICAコース「非破壊検査技術」(平成16年5月)

随 ZUISO 想 •ずいそう•



(財)北九州国際技術協力協会
常務理事 事務局長

藤重 宗夫

■「情熱」と「誇り」と

昨年6月、40年にわたる会社生活に終止符を打ちました。現役を退いた当初は、全ての束縛から解放され周囲に対してなんの気兼ねをすることもなく、やりたいことが思う存分に出来る生活が実に素晴らしいものに思えました。早速かねてから考えていた二つのことを実行に移しました。一つは自動車運転免許の取得であり、一つは好きな歴史の勉強です。

運転免許は、歳のわりには上達が早いなどおだてられながら、何とか2か月でものにすることが出来ました。歴史の勉強は、まずは手始めに北九州市の「高齢者大学」に通い、「北九州の歴史と文芸」講座を受講しました。機会があればここで得た知識を活かして「観光都市北九州」をPRするボランティア活動などにも参加してみたいなどと考えもしました。

ところが、最初あれほどまでに憧れたにもかかわらず、そんな毎日になんとか物足りなさを感じるようになるのに大して時間を要しませんでした。社会との関わりが極めて希薄になり、自分が世の中から取り残されたような気分が襲われ出したのです。できることなら、まだ暫くは社会に必要とされる存在でありたいとの思いが沸々と湧いてきました。

そんな矢先、KITAで仕事をしないかとのお誘いをいただきました。一も二もなくお受けすることにしたのは云うまでもありません。こうして、私は4月から事務局員としてKITAの皆さんの活動をお手伝いするようになりました。

KITAへ来て3か月、まだまだ勉強することばかりですが、そんな中で一つだけ明快に理解できたことがあります。それはKITAで活動する皆さんの意気込みのすごさです。60歳を越して運転免許に挑戦したことなどここではなんの評価にも値しないくらいフレッシュな感覚とエネルギッシュな行動力。そしてまた、長年にわたって培ってきた豊富な知識と経験を開発途上国の方々に伝えようという強い使命感には、半年足らずの講義を受けて全てわかったような気持ちでボランティア活動をなどと考えた自分のおこがましさを思い知らされました。皆さんのこのような熱い思いがKITA二十余年の歴史を支え今を築いているのだと実感しました。

2003年10月に独立行政法人国際協力機構として新たなスタートを切ったJICAは「日本と開発途上国の人々を結ぶ架け橋として、互いの知識や経験を活かした協力をすすめ……」とその使命を謳い、「情熱」と「誇り」をもって仕事に取り組むことを宣言しています。勿論この精神は北九州市が推進する中国、韓国等との交流事業においても何ら変わるものではないでしょう。KITAはこれからも豊富な人材と一人ひとりの強烈な使命感で各方面のご期待にこたえていくこととなります。私もその一翼を担って「情熱」と「誇り」を持って精一杯努力していきたいと思えます。

KITAの平成16年度理事会開催

6月24日(木)に平成16年度KITA理事会を開催しました。議事に従い、「平成15年度事業報告及び収支決算」について報告し承認が得られました。続いて「平成16年度事業計画及び収支予算」を説明し、原案通り承認され、本年度のKITA事業計画が決定しました。

途上国の持続可能な産業発展支援を使命とするKITAは、今年度も産官学民のご協力のもとクリーナープロダクションと環境管理技術の2本柱を駆使して、効果的な活動を積極的に実施します。

以下はこの理事会での報告・説明の概要です。



KITA理事会(6月24日)

平成15年度事業報告

JICA研修事業

北九州市に蓄積されたクリーナープロダクション(CP)技術及び環境管理技術を途上国技術者の研修(人造り)を通じて積極的に技術移転しました。

本年度の集団等研修コース数は、昨年度までの日墨交流(メキシコ)「品質・生産性」コースが終了しましたが、JICAのコース開設ニーズ調査にKITAも参加しました「ブラジル国設備診断技術」コースの開設が認められ、また、相手国から要請のあった「アルジェリア・工業及び都市環境管理」コースと「フィリピン・クリーナープロダクション振興」コースの受託も決まり、ODA予算削減の中で昨年度比2コース増の計22コースとなりました。

上記のほか、個別研修コース数は、JICA・草の根技術協力事業として、3カ国から5名の参加を得た「環境NGOの人材育成」コースと大連市から2名参加の第2回「大連市クリーナープロダクション導入に対する人材育成」の2コースを実施しました。さらに、年後半に中国の日中環境友好センターの2名に対するクリーナープロダクションの個別研修1コースも実施し、平成15年度の集団・個別研修の合計は25コース182名となり、昨年度比で4コース28名増の研修を実施しました。

1) 集団及び特設研修	22コース(47か国173名)
個別研修	3コース(4か国9名)
合計	25コース 182名

2) 特別案件調査

本年度は、新設のアルジェリア「工業及び都市環境管理」コースのニーズ調査のため、コースリーダーと水質管理の専門家をアルジェリアへ派遣し調査を行い、調査結果が新しいコースの的確なカリキュラム作成に反映されました。

3) 研修関連業務

(1)平成15年10月のJICA独立行政法人化に伴い、予算制度の変更と業務の透明性の向上及び説明責任を果すための新評価システムが導入されることとなり、研修コース毎に4~5項目の到達目標を研修前に明示し、研修終了後に各研修員の目標達成度を評価し、点数表示するマニュアル化について、JICA九州国際センターとKITAの間で検討を重ね、ほぼ成案を得ましたので、平成16年度開講分から実施することになりました。

(2)昨年度から本年度にかけて8コースでコースリーダーの若返り人事交代を図りました。前コースリーダーが一部期間ラップしたコースもあり、円滑かつ効果的な引継ぎを行いました。



JICAコース「自動制御」(平成15年9月)

技術協力事業

1) 中国産業環境協力

(1) 大連市への協力

「大連市のクリーナープロダクション(CP)導入に対する人材育成」コースの研修員受入

JICA・草の根技術協力事業

昨年度に引続き、大連市側が進めている企業へのCP導入の効率化と人材育成を助成するため、環境保護局管理者2名を対象に10月16日～11月13日の間、CPの基本的考え方、国・自治体の推進状況、企業の実施結果の見学と討議を行いました。今後大連市におけるCPの積極的な導入と着実な成果が期待されます。

(2) 重慶市への協力

技術者受入研修と専門家派遣によるセミナー

北九州市より受託

SARS(重症急性呼吸器症候群)による日程調整の遅れで標記研修とセミナーが中止となり、北九州市の意向で、大連市、重慶市を対象としての案件発掘とこれまでの協力案件のフォローアップ調査が行われました。

2) 韓国産業技術協力

(1) 第10回韓国中小企業技術者専門研修

(財)日韓産業技術協力財団より受託

本事業は韓国側で長年高く評価されていますが、コースによっては人材不足で参加者が少なく問題でした。この対策を日韓共同で検討した結果、応募者の多い生産性向上コースを二分割して1コースを増設し、1コース定員数を10名から8名に削減するとともに、研修期間を短縮しました。

研修人員	研修コース名	研修期間(58日間)
10名	金属部品の加工と生産性向上	9月17日～11月13日
6名	付加価値生産性向上	同上
8名	中小企業管理者のための生産性向上	同上
5名	クリーナープロダクションとリサイクル新技術	同上
9名	設備の有効活用技術	同上

本年も昨年同様、コースリーダーが8月27日～29日に訪韓し、研修予定者に事前の研修オリエンテーションを行いました。

(2) 第9回韓国専門技術者派遣事業

(財)日韓産業技術協力財団より受託

16社を対象に7月22日～30日の間「事前調査」を行い、うち7社を指導対象として選び、専門技術者による「事前訪問」を9月に実施。その

後「本指導」について「個別契約」を締結し、6名の専門技術者で9～12月の間、「本指導」を実施し、高い評価と感謝の意が示されました。しかし、受託先財団の都合で本事業は今後取止めることになりました。

(3) 第7回「仁川広域市 北九州市間技術研修」

韓国・(財)松島テクノパークより受託

研修カリキュラムは、従来からのメカトロニクス及び環境管理に今回からIT、新素材が加えられ、韓国仁川市の中小企業経営者層を対象に実施しました。

研修コース名	研修人員	研修期間	工場見学
仁川広域市 北九州市間技術研修	13名	平成15年10月12日～18日	8工場

研修成果発表会では、見学企業の多くが多品種少量生産を効率よく実施していることと環境への配慮もよくされているのに感心したとの意見でした。

3) その他の事業

(1) 台湾・エコテクノパーク研修生の受入れ

台湾・工業技術研究院から受託

北九州市の紹介で、台湾政府が計画している環境関連先進産業の立地拠点の指針とするため、行政15名、大学2名、民間2名の19名が、11月24日～12月3日の間、エコタウン推進の北九州市・企業の視察、行政施策とクリーナープロダクションの研修を行いました。

(2) コンサルティング事業

昨年度からJICAコンサルティング事業に応募する専門技術者は、所属する機関と雇用契約を行っていることが必要条件となり、残念ながら今年は受注なしでした。



韓国中小企業技術者専門研修(平成15年9月)

生産性協力事業

1) KITA / 北九州メンテナンス技術研究会(KME)の活性化

「KITA / KMEセミナー」は6講座実施し、79名の若

手技術者が受講し、厳しい経済環境にあるKME会員各社の人材育成を支援しました。また、年1回恒例の「KITA

「KME総会・講演会」も開催し活性化を図りました。更に昨秋に発足した「予知保全研究部会」が本年度も指導講師2名の参画を得て9社からの第1線技術者で活動しました。

(1)「KITA / KME セミナ - 」 < 6 講座実施 >

疲労強度	4日(24時間)
腐食・防食	4日(24時間)
溶接技術	2日(12時間)
制御技術	3.5日(21時間)
油圧制御	1日(6時間)
設備診断技術	2日(12時間)

受講者 延46社 79名

(2)「KITA / KME 総会・講演会」の開催

(平成15年7月18日)出席者 83名

演題 : 『メリットを生む保全のアウトソーシングとは』
『屋外タンクの連続底板検査装置の開発』
『インバーター使用による省エネルギー』

(3)「予知保全研究部会」の活動

KME幹事会での提案を受け、会員会社へアンケート調査を行い、総会の承認を得て、平成14年10月に発足。平成15年度は年間6回の研究会を実施しました。

2)「KITA ニュース」(KITA 広報誌)の発行とホームページの拡充

KITA活動への引き続いてのご支援ご協力を願って、平成11年10月から季刊誌として発行し、本年度も内容の充実を図るとともにホームページの内容を拡充しました。海外の研修参加を希望する人が閲覧出来るようホームページの英文コンテンツも拡充しました。平成15年度のKITAニュースの発行状況は次の通りです。

平成15年 4月	第15号発行	1,700部
7月	第16号発行	1,760部
10月	第17号発行	1,630部
平成16年 1月	第18号発行	1,600部



KITAセミナー「制御技術」(平成15年9月)

環境協力事業

1) 環境関係国際研修

(1) インドネシア・スラバヤ市個別研修コース(環境保全)1名
北九州市より受託

2) 企画調査

(1) 日中都市間(北九州市、天津市及び青島市)における環境保全及び循環型社会形成に係る環境国際協力
環境事業団地球環境基金助成事業

天津市と青島市で、大連市での実績に基づき、市関係者・企業管理者及び研究者を対象にセミナーを開催しました。さらに天津市ではCP移転のための現地調査と提言及びフォローアップ事業を実施しました。

(2) JICA 開発パートナー事業「インドネシア・スマラン市モデル河川環境改善プロジェクト」

JICAより受託

JICAの3か年事業の最終年度として、豆腐工場排水処理施設の完成、日本の豆腐技術の移転及び地域住民への環境教育等を実施しました。

(3)「ASPRO」推進のための都市別環境・産業調査事業

北九州市より受託

南ア・ヨハネスブルグで開催された地球サミットで北九州市が約束した「ASPRO(アジアの均衡ある発展に向けたパートナーシップ・プログラム)」

の推進のため、アジア諸都市調査の情報(都市概要、インフラ、産業、環境等)を提供し、環境ビジネス戦略の便を図りました。

(4) 北九州イニシアティブフォローアップ事業

北九州市より受託

北九州イニシアティブ普及のため、フィリピン・セブ市の行政・NGO等の代表者3名を北九州市、宇部市及び水俣市に招聘し、行政・市民との交流事業を実施しました。

(5) モンゴル・ウランバートル市環境改善事業

国際協力銀行より受託

冬季の石炭生焚きによる大気汚染改善のため、暖房・調理用燃料を石炭からクリーンコールブリケット(石灰を加えた豆炭)に転換するための環境基礎調査を実施しました。

(6) モンゴル・ウランバートル市健康影響調査事業

国際協力銀行より受託

同じく暖房・調理用燃料を石炭からクリーンコールブリケットに転換するための健康影響基礎調査を実施しました。

(7) 地球環境市民大学校研修事業

環境事業団地球環境基金受託事業

地球環境を守るNPO・NGO活動を支援・促進

するため、九州・沖縄地区の12団体が一堂に会して活動成果を発表する研修事業を実施しました。

(8) スリランカ環境支援対策事業

国際協力銀行より受託

スリランカにおける環境改善を目的に、企業による産業公害防止のための投資支援事業実施に向けて環境政策専門家を派遣し、分析・検討を行ないました。

(9) インドネシア廃棄物調査事業

北九州市より受託

インドネシア・スラバヤ市、西ジャワ等で実施予定の廃棄物管理関係プロジェクトの現地調査を実施しました。

(10) 北九州市における環境関連企業等のシーズ調査

北九州市より受託

市内及び近郊企業の最新の環境関連企業情報、シーズ及び海外企業とのビジネス展開の意向等の情報収集を行ないました。

3) 環境情報の収集・提供

(1) 市民わくわく環境国際協力体験事業

北九州市より受託

市民の国際協力への関心と理解を深めるため、市民を対象に国際協力の体験事業(アジアユース会議・プロポーザル書き方講座等)を実施しました。

(2) 帰国研修員へのニューズレターの作成

北九州環境研究会

(3) 環境国際協力人材バンク運営業務

北九州市より受託

(4) 北九州環境研究会(KISEC)の運営

北九州環境研究会



インドネシア・スマラン市モデル河川環境改善プロジェクト

親善交流事業

1) 親善交流プログラム

本年度も国際親善交流は、北九州市民、地元国際奉仕団体のご支援を得て成功裏に終了しました。研修員が無事帰国の途に着く陰に市民の善意と友情があり、市民と研修員相互に邂逅の不思議さと楽しさを教え、市民とのよい関係は帰国後も継続され、親しみと信頼感を増しています。

(1) ホームビジット

ホストファミリーの協力のもとに本年度は延べ10回122名に実施しました。研修員も日本人家庭も共に新しい出会いを楽しんでおり、在日中及び帰国後も相互間の交流は続いています。

(2) バスハイク

本年度は4回実施しました。主催はソロプチミスト北九州が1回、ソロプチミスト北九州-西が1回、KITAが2回で、参加研修員数は105名でした。近距離での日本の歴史、自然、観光を楽しめるように実施し、下関の海響館(水族館)は今年も好評でした。

(3) 研修員歓迎パーティー「西日本工業倶楽部のタベ」

本年度は共催で6回実施。共催団体は、毎回の西日本工業倶楽部及びKITAのほかは、八幡西ロータリークラブと八幡南ロータリークラブの各1回の共催でした。

研修員延べ184名が、西日本工業倶楽部松本邸のビデオ鑑賞、館内案内、美しい庭園での食事のあと、裏千家淡交会北九州支部青年部によるお

茶会、最後はビンゴゲームに興じました。毎年のことながら、優美なアールヌーボーの世界に浸る夕べのひと時は、研修員をリラックスさせ喜ばせました。

2) 英文生活情報誌(Enjoyable Kitakyushu)改訂

最新情報掲載のために本年度は次の項目を改訂しました。

平成16年度JICA/KITA受託研修コース、研修員受入れ人数表(平成16年3月末現在)、郵便料金表、国際電話料金表、市内観光案内表、市内ショッピング

3) 記念アルバム贈呈

KITA受け入れ研修員毎に、研修中撮影の記念アルバムをコース閉講時に贈呈しました。

4) グリーティングカード制作・送付

本年度は、世界へ2,643枚のグリーティングカードを事務局から郵送しました。



バスハイク山口「秋芳洞」(平成15年10月)

平成16年度事業計画

JICA 研修事業 | 帰国後役立つ研修に努めています

1) 集団及び特設コースの実施

昨年度の22コースに加え、「ガーナ・中小企業振興支援」と「エジプト・生産性向上」という短期2コース(1か月)の新設があり、計24コースの予定です。(個別研修は除く)

2) 研修関連業務

- (1) JICAの今年度からの新方針に対応するため、KITAは従来以上にJICA九州国際センターと密接に情報交換します。
- (2) 研修成果のアクションプランが、平成15年度分から研修を管轄するJICA在外事務所に送付されるようになりましたので、今後JICAの掲げる現場主義の方針に沿って、帰国後のアクションプラン実施

状況のフォローを強化し、現地情報をできる限り入手し、次回研修に反映させる方向で取り組みます。

- (3) JICAは集団研修コースと国別・課題別・地域別研修を50:50にしてゆく方針であり、年限(5年の倍数)に到達した既設集団研修コースはその対象となります。昨年度は2コースが改廃対象となりましたが、継続が認められました。(保全管理及び機械制御コース)

今年度は5コース(鋼材加工の品質管理、産業医学、工業設備のリノベーション、生活排水対策、大気汚染源モニタリング管理)が改廃対象ですが、今後JICA九州国際センターに存続に向けて意見具申いたします。

技術協力事業 | アジアへの技術協力が続きます

1) 中国産業環境協力

(1) 大連市への協力

「大連市のクリーナープロダクション(CP)導入に対する人材育成」コースへの研修員受入(JICA・草の根技術協力事業)今年度も、企業へのCP導入の指導と人材育成を助成するために研修員の受入を実施します。

(2) 重慶市への協力

技術者受入研修 北九州市より受託
行政及び企業幹部に技術研修を実施します。
専門家派遣によるセミナーと企業指導
要請に基づき専門家派遣を実施します。

2) 韓国産業技術協力

(1) 第11回韓国中小企業技術者専門研修

(財)日韓産業技術協力財団より受託

研修コース名	研修生(定員)	研修期間(53日間)
金属部品の加工と生産性向上	10名	8月31日~10月22日
付加価値生産性向上	10名	同上
中小企業管理者のための生産性向上	10名	同上
設備の有効活用技術	10名	同上

本年度は委託機関の予算に対応するため研修コース別の研修生の応募状況に対応して、環境関係コー

スを廃止して4コースとし、全体の定員は前年と同じ40名。

研修期間は前年度58日間で今年度53日間とします。

(2) 第8回「韓国仁川広域市-北九州市間技術研修」

韓国・(財)松島テクノパークより受託

今年度も中小企業経営者層を対象に受入研修を実施します。

3) その他の事業

(1) 「西日本プラントエンジニアリングシンポジウム・2004」開催

地場企業の活性化・人材育成を目的に、10月5日(火)~7日(木)に実施します。企業体質強化、技術者教育及び海外事業展開をテーマに、講演、事例発表及びパネルディスカッションが行われ、企業見学も実施します。

(2) フィリピン・クリーナープロダクション導入への協力

国際協力銀行から受託

国際協力銀行(JBIC)との協議によって、フィリピン開発銀行(DBP)主催でクリーナープロダクション(CP)の啓蒙のためのフォーラムとトレーニングが、セブ島とマニラで4、9月と10月に実施され、KITAは講師として参加します。

生産性協力事業 | 地元企業の人材育成に協力しています

1) KITA / 北九州メンテナンス技術研究会(KME)の充実・活性化

(1) 「KITA / KMEセミナー」 < 8講座開講予定 >

疲労強度 4日(24時間) 腐食・防食 4日(24時間)
溶接技術 2日(12時間) トライボロジー 2日(12時間)
制御技術 3.5日(21時間) 油圧制御 1日(6時間)
設備診断技術 2日(12時間) 新規コース

(2) 「KITA / KME総会・講演会」の開催

平成16年7月22日(木)

演題 : 「北九州市のPCB処理について」

演題 : 「ISO機械状態監視診断技術者(振動)認証制度の紹介」

演題 : 「インバータの寿命・信頼性」

(3) 予知保全研究会の開催

本年度は昨年同様年間6回の研究会を、参加9社で開催予定です。

2) 「KITAニュース」(広報誌)

益々多面的な活動を続けるKITAの顔が見える等身

大の判り易い広報誌を今年度も3か月毎に発行します。
 3)「KITAホームページ」に「KITAニュース」の主要記事の取り込み
 開設後6年を経過した「KITAホームページ」は、上

記「KITAニュース」を発行の都度、その主要記事をホームページに取り込んでいます。
 KITAホームページアドレス <http://www.kita.or.jp>

環境協力事業 アジアとの環境協力にフル回転中です

1) 環境関係国際研修

スラバヤ市・天津市個別研修コース(環境保全) 各1名
 北九州市より受託

2) 企画調査

(1) インドネシア国スラバヤ市における分別収集・堆肥化による廃棄物減量化への支援

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金助成事業・
 公益信託地球環境日本基金助成事業
 一般廃棄物の減量化推進のため、堆肥化技術の普及と環境教育モデルの施設を整備し、住民参加による分別収集と堆肥化実施で、市民の関心と理解を図ります。

(2) フィリピン・メトロセブ地域環境改善事業

北九州市より受託

JICA・草の根協力事業(地域提案型)として北九州市が申請している本事業をKITAが受託し実施します。この事業は、地域を流れるグアダルペ川の環境改善に向けて、モデル地区を定め生活排水を簡易浄化槽型の水処理施設で処理し、水質を改善します。

(3) インドネシア環境教育指導者育成事業(仮称)

JICAより受託

本年3月に終了したJICA開発パートナー事業「インドネシア・スマラン市モデル河川環境改善プロジェクト」の成果・評価を受けて、新たにインドネシアにおいて環境教育を推進するための事業を実施します。

(4) 廃棄物に関する国際協力推進セミナーの開催

北九州市より受託

国際協力に関する調査やプロジェクト実施において、JICAや国際協力銀行など、日本の援助機関との連携の可能性について、援助機関、地方自治体、NGOなどの代表が一堂に会して議論するセミナーを開催します。本セミナーは、本年8月開催予定の「第3回北九州イニシアティブネットワーク」の併催事業です。

(5) アジア環境ビジネス商談会の開催 北九州市より受託

平成15年度に実施した「ASPRO推進のための都市別環境・産業調査」の結果を踏まえ、地元企業の国際ビジネス支援のため、平成16年10月に開催予定の「エコテク2004」に併せて、アジア環境ビジネス商談会を開催します。

3) 環境情報の収集・提供

(1) 市民わくわく環境国際協力体験事業 北九州市より受託

昨年度に引き続き、市民やNGOを対象に、世界の環境問題や環境国際協力への関心と理解を深めていくため、セミナーや環境国際協力体験事業を実施します。

(2) 北九州環境国際ビジネス推進連絡会議運営業務

北九州市より受託

北州市内企業の環境ビジネスを促進するため、情報提供及び情報交換の場として、連絡会議を開催します。

親善交流事業 市民の善意で日本の姿を伝えます

1) 親善交流プログラム

(1) ホームビジット

昨年同様10回の実施を予定。ご協力の家庭は、KITA設立以来の方々を含め受け入れ十年以上が多く、年々家庭の事情により減少傾向ですが、昨年度は他国際団体に呼びかけて新規登録家庭が10余増え、本年度も更に努力して新規家庭の開拓を図ります。

(2) バスハイク

主催は、ソロプチミスト北九州1回、ソロプチミスト北九州ー西1回、KITA2回を計画していますが、ソロプチミスト東などにもお願いして支援の可能性を探ります。

(3) 歓迎パーティー「西日本工業倶楽部の夕べ」

市内ロータリークラブ・西日本工業倶楽部・KITAの三者共催で年間5回実施を予定。瀟洒な

アールヌーボー洋館、純日本館、美しい庭園での食事と会話は、研修員の心を和ませます。

2) 生活情報誌(Enjoyable Kitakyushu)の改訂

3) 記念アルバム贈呈

研修中に撮影された写真はアルバムの形で20数年来、贈呈しており、帰国後も親善交流に役買っています。だが写真が各人100枚を越えてアルバムが重くなり、研修員からの要望で、一部の写真をデジタルカメラからCDに収め、アルバムと共に閉講時に贈呈する予定です。

4) グリーティングカード作成・送付

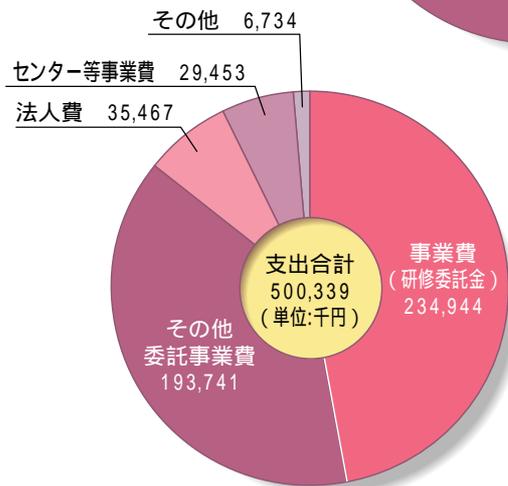
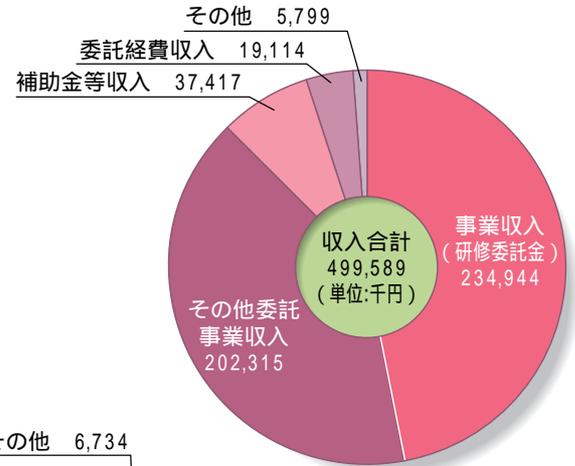
住所変更のないすべての研修員に郵送を継続して、KITAの近況を知らせます。一方、研修員からは年々手書きのカードは減り、メールが多くなってきていますが、当分カード郵送は継続します。

平成15年度決算及び平成16年度予算

平成15年度決算(単位:千円)

収入	
財産収入	844
寄付金収入	0
事業収入(研修委託金)	234,944
委託経費収入	19,114
その他委託事業収入	202,315
補助金等収入	37,417
雑収入	4,955
当期収入合計	499,589

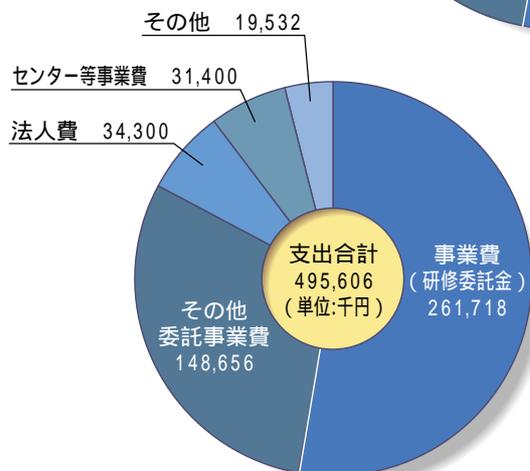
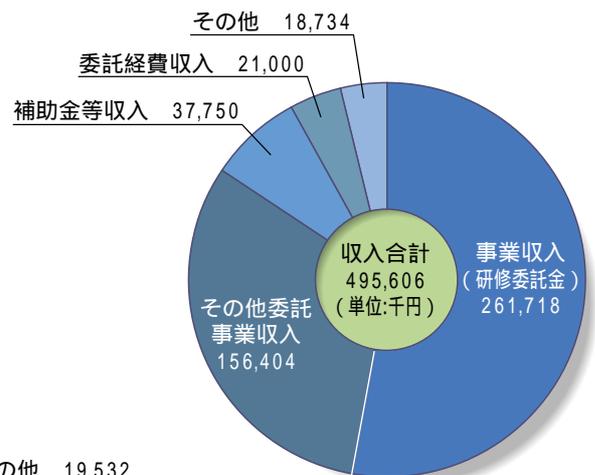
支出	
法人費	35,467
委員会費	5,734
事業費(研修委託金)	234,944
センター等事業費	29,453
その他委託事業費	193,741
基本金繰入	0
KITA25周年記念事業準備金	1,000
予備費	0
当期支出合計	500,339



平成16年度予算(単位:千円)

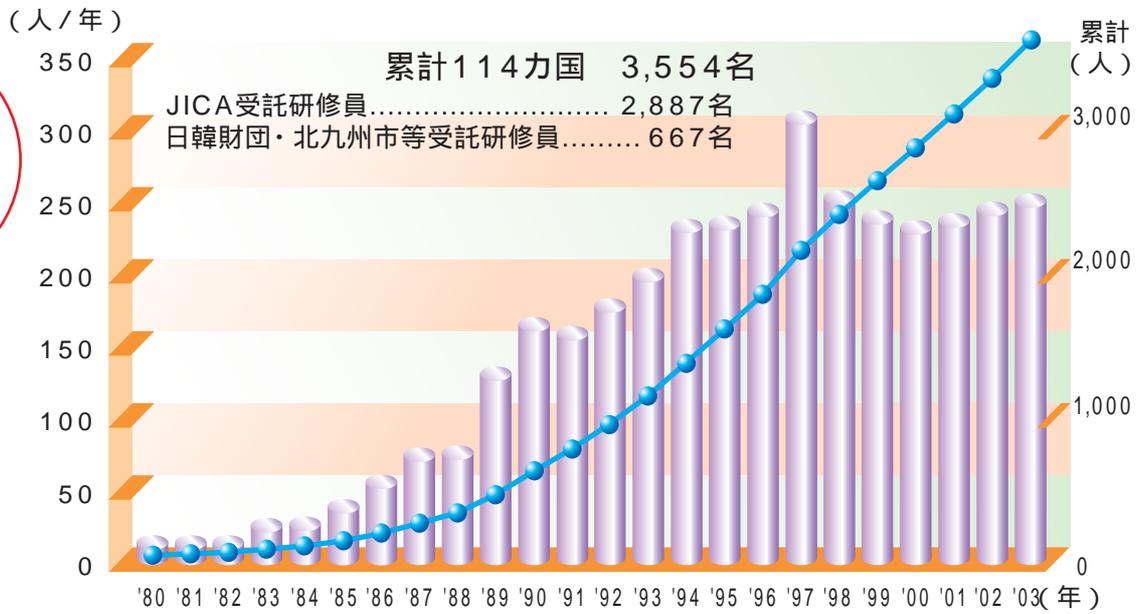
収入	
財産収入	727
寄付金収入	1,000
事業収入(研修委託金)	261,718
委託経費収入	21,000
その他委託事業収入	156,404
補助金等収入	37,750
雑収入	3,600
前期繰越収支差額	13,407
収入額合計	495,606

支出	
法人費	34,300
委員会費	5,250
事業費(研修委託金)	261,718
センター等事業費	31,400
その他委託事業費	148,656
基本金繰入	1,000
KITA25周年記念事業準備金	1,000
退職給与引当預金支出	2,000
予備費	10,282
支出額合計	495,606



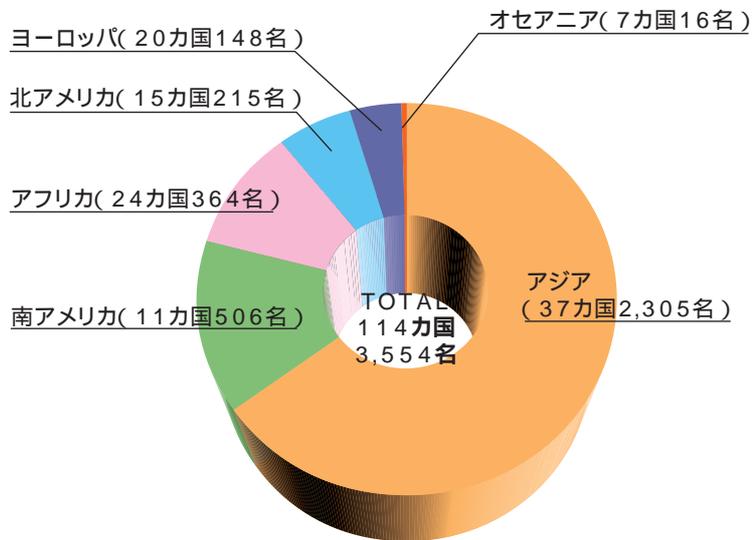
海外研修員受入れ実績

研修員受入れ実績



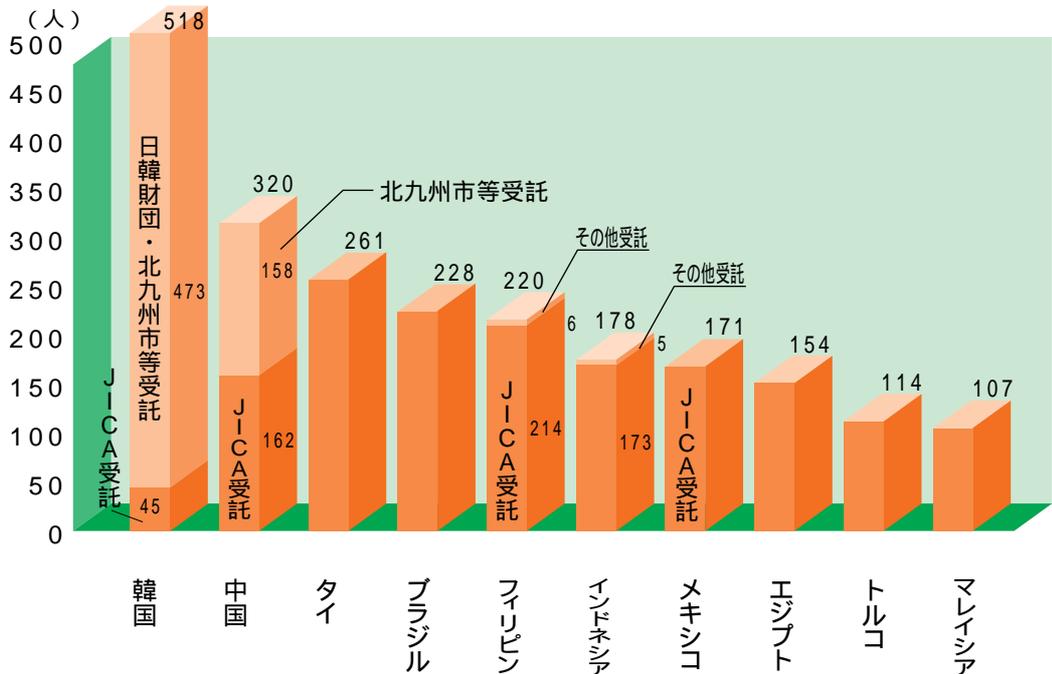
地域別研修員受入れ実績

('80~'03年累計)



国別研修員受入れ実績上位10カ国

('80~'03年累計)



最近3ヵ月間(平成16年4月～6月)にKITAで研修修了した5コース38名

(平成16年7月)

	コース名	受託先機関等	KITAコースリーダー (サブリーダー)	KITA研修期間(月/日)	研修人数
クリーナープロダクション	エネルギー管理	JICA	見学克美	3/15～5/28	7
	クリーナープロダクションのための保全管理	JICA	松井大 三郎	1/19～4/27	6
	クリーナープロダクションのための工業設備のリノベーション	JICA	安藤雅夫 (溝部 等)	2/23～6/4	7
	非破壊検査技術	JICA	外山 弘	3/1～6/18	8
環境管理	アルジェリア・工業及び都市環境管理	JICA	城戸浩三	3/19～4/28	10

計38名

「西日本プラントエンジニアリングシンポジウム2004」 開催のお知らせ

本年10月に、標記シンポジウムが下記のとおり開催されます。このシンポジウムは地場企業の活力増進、人材育成のお役に立つことを目的に実施されるもので、今年は経済産業省及び北九州市の助成をいただき、地域関係諸団体の後援により開催されるものです。これまで隔年毎に実施しており、今回は7回目になります。

広く各企業、諸団体の方々のご参加を期待しております。

記

1. 期間:平成16年10月5日(火)～7日(木)まで 3日間
2. 主催:(財)北九州国際技術協力協会 共催:北九州市
3. 場所:北九州国際会議場 2階「国際会議室」
(北九州市小倉北区浅野 3-9-30)

4. 実施内容

- (1)10月5日(火)(10時～17時)
講演及びパネルディスカッション
特別講演「元気を出せ中小企業」
(政策研究大学院大学教授橋本久義氏)
基調講演「21世紀型中小企業の経営戦略」
(萩国際大学特任教授皆川重男氏)
事例発表「ポンプのエネルギー診断と効率改良技術」
(ニッセツ大阪エンジニアリング(株)部長国末義英氏、
コロコートジャパン(株)社長田中覚氏)

事例発表「ASPの活用による設備管理」

(三菱化学エンジニアリング(株)設備管理センター長中村武久氏)
パネルディスカッション「企業における技術者教育と大学への期待」

(2)10月6日(水)(10時～17時)

講演及びパネルディスカッション
特別講演「九州企業とアジアビジネス」

(福岡大学教授居城克治氏)

基調講演「九州企業の海外進出の現状」

((財)九州経済調査協会部長高木直人氏)

事例発表「(株)三井ハイテックの海外展開について」
(株)三井ハイテック常務執行役員三井康誠氏)

事例発表「TOTOの中国におけるマーケティング展開について」
(東陶機器(株)国際営業本部長木下学氏)

パネルディスカッション「海外進出にあたっての諸問題」

(3)10月7日(木)(9時～17時)

関連企業見学

見学先:北九州エコタウン・廃木材廃プラスチック処理工場、響灘地区風力発電、北九州学術研究都市産学連携施設、(株)三井ハイテック金型事業所

5. 参加:無料。申込必要。但し、関連企業見学のみ2,000円。



■ 常務理事を辞するにあたって

(財)北九州国際技術協力協会
参与

相良 宣克

私の常務理事兼事務局長としてのKITAでの勤めは21年間でした。今、振り返れば様々な場面が次から次にフラッシュバックしてきます。昭和58年、新日本製鐵の子会社からKITAへ出向し、それまではマスメディアでしか知りえなかった「国際」という語彙が突然身近なものとなりました。私の内なる国際化が始まりました。

北九州の各国際分野でご活躍のたくさんの優れた方々との出会いがありました。KITA設立に力を尽くされた北九州青年会議所、商工会議所、西日本工業倶楽部の経済三団体、県や市関係者の方々、研修受け入れ諸機関、又、ソロプチミストを始めとする国際奉仕団体、一般市民...といった多くの方々にご指導と惜しみないご尽力を賜りながら何とかKITAでの仕事をやり遂げてまいりました。そして、3,500名以上にも及ぶ各国からの研修員との邂逅も併せて、私の後半の人生は豊穡なものとなったと感謝しております。

私の内なる国際化とは英語を流暢に話すことでもなく、世界の国々の文化、習慣、考え方の相違を知ることもなく、もちろんそれらは大事なことです。一人一人の生身の人間と直に接し、この地球上に住む同じ人として同じ時間、空間、場所を人生のひと時に共有し、共に生かされていることを喜びあい、生への充実感を深めることでした。

KITAでの仕事に携わりながら、自分に言い聞かせてきたことは、人への愛がなければどんなに素晴らしいことをなしても、虚しいということです。愛という字句か

らは優しさのみをイメージしがちですが、それだけではない。私の座右の銘は前号でも書きましたが、「勇気・決断・寛容」です。厳しい実行面に遭遇し、非力ながら、常務理事兼事務局長としてKITAを背負い、引きずり、涙したり、笑ったり、又、走りながら決断しなければならない時も場合も多々ありました。小さな流れが土手を徐々に作り始め、現在では基本金が5億を越え、JICA受託研修23コースをはじめとし、専門家派遣事業や各種技術プログラムを海外で展開しております。現在に至っては当初、本当に想像もしなかったKITAの拡大と発展をみることができました。

この度、私はKITAの勤めに一区切りをつけ常務理事を辞することになりましたが、引き続いて参与としてKITAに籍を置いておりますので、今後もKITA事業伸展のために今までの経験を無にすることなく微力を尽くす所存でございます。ひとまず、本欄にて現在に至る迄の関係各位からの永年のご交誼と御厚情を感謝致し、衷心から御礼申し上げる次第でございます。誠に有難うございました。

今後とも、皆様からのご指導とご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

機械加工のこころを伝える

15年前からKITAの技術研修と施設見学を受け入れて実施しています。昨年度も見学を3回、技術研修を1回、実施しました。

研修員は、勤務する大学や行政機関、訓練施設等のエリートだけあって、非常に熱心な姿勢で研修に臨んでいます。とくに指導技法などには関心が高いようです。

今年度は昨年度に引き続き「NC工作機械」の技術研修を計画しています。研修員の国では、NC工作機械等の普及はまだまだですが、あえて先端機器を使った研修を計画しました。NCには機械加工のノウハウがプログラムとしてたくさん詰まっています。今すぐに役立つなくても、近い将来、必ず役立つ時がくるはずです。

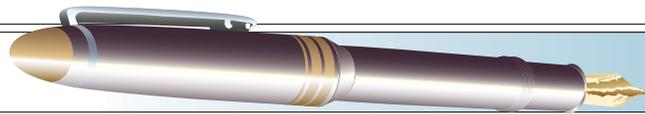
研修内容は、必ずしも自分の専門分野ではない研修員もいます。しかし、製造業の基本は機械加工にあると思います。その指導技法は他の分野においても共通点が多いはず。指導技法を学んでもらうた

めには、NCの研修を受けるだけでなく、学生の基本実習やCAD/CAM等の先端機器を使った指導方法も見学していただくようにしています。また、こちらから一方的に教えるばかりでなく、相手の文化や技術等と交流する時間も取り入れています。会話の中では家族や国の話題も飛び出します。お互いの異文化に触れることでコミュニケーションが図られると同時に、我々としても教えられるところが大きいと感じています。今後も、「九州職業能力開発大学校はよかった」と言っ

てもらえるように機械加工の技術研修をとおした国際的なコミュニケーションを大事にしていきたいと思



右から赤星教授、西原助教



わが社の研修協力記

東陶機器(株)小倉第二工場

- 生産革新の講義と現場学習 -

北九州市小倉南区朽網東5 - 1 - 1

自社の問題意識を持って日本の 厳しい製造現場実態を見てほしい

10数年前からKITAの研修を受入れ中。何かをつかんで帰ろうとする熱心な研修員が多いのですが、時には何しに来たのかと思われる人もいます。

研修員のレベル(経験、能力、関心度)が分からないので、通り一遍の研修にならざるを得ませんが、講義後の質問の多いときはレベルの高さと教える喜びを感じます。

当工場で力を入れて教える内容は、継続的に生産性を向上させる企業が生き残るための手段としての「生産革新」の説明です。生産革新は、人の能力を最大限活かす、変化へ柔軟に対応する、ムダの徹底排除を狙いとしています。

説明の理解度は分かりませんが、厳しい品質基準をパスした製品のみを出荷している日本の現状を学んでもらいたい。

日本の進んだ生産性向上対策のひとつでも理解し、帰国後自分の職場に適用可能な状態にして実行してほ

しいと期待しています。そのためには研修員の自社職場の問題意識が大切です。序でながら研修を通じてTOTOのよさを知ってもらいたいし、商品に関心を持ってほしいと期待しています。

当工場で何を学びたいのかについて、KITAコースリーダーから当該年度の研修員の要望項目を事前に早めに連絡してくれば教え易いしそれなりの準備もできればしたいと考えています。または当年度の研修後、コースリーダーと来年の研修項目について話し合えればと思います。「生産革新」の講義は帰国後役立つと考えますが、研修員に理解力があるのかどうかの不安・悩みが教える側に常にありますので、事前調整が必要です。



右から水栓生産技術課長西岡浩二氏、同課江藤賢治氏

社会資産の安全を守る非破壊検査の普及

東亜非破壊検査㈱ 品質保証部長
池田 忠夫

今年も7カ国から8名のエンジニアたちが「非破壊検査技術」コースに集まってきました。早いもので今年で11年目を迎えます。手探りの状態で始めた初回の研修から、これまでに22カ国から90名の方のお相手をしたこととなります。私が担当しています超音波探傷試験(UT)は、人気種目ということもあり延べ12日間の日程が割かれており、責任を感じております。毎年のことですが、講義の初日が始まるまでに全員の名前を覚えるようにしています。外国人相手の場合には、“君”とか“あなた”ではなく名前呼びかけることが大切なこともこの研修コースで学びました。その他にも、国内の日本人相手の講習会では到底得られない貴重な経験を沢山させて頂きました。

UTクラスは長丁場のため、毎朝、前回の講義内容の理解度確認のミニテストを行っています。立派な大人の研修員が学生の頃に帰って真剣な顔で問題と取り組むのを見ると、こちらも真剣に対応しなければと本気モードになります。毎日がこの調子で、最終日の修了試験まで研修員のテンションは上がりっぱなしです。

素材産業や溶接加工業などで品質管理のツールとして使われ発展してきた非破壊検査技術も、近年は社会資産の安全性の検査に多く使われるようになってきました。研修員たちが真剣に学んだ日本の非破壊検査技術が、母国や研修員自身にとって大いに役立っていることは、フォローアップ調査で彼らと再会した際の歓待ぶりで十分に納得できました。男同士で抱き合って喜ぶことなど、この研修コースを担当していなかったら経験することもなかったことでしょう。



講義中の筆者(前列中央)

研修員の評価こそ講師への道標

価値創造経営研究所代表 東和大学特任教授
KITAコースリーダー 三木 義男

私は、KITAの講師をして約14年になります。その間、私の脳裏にあったことは、「研修員が満足する講義を如何にすることが出来るか?」であります。その発端は、講師を始めた頃に、コースリーダーから送られてきた研修員の全講師評価を見た時のショックからです。自分なりに満足していましたが、他の講師より評価が低かったのは私にとって反省する良い機会になりました。

そして、研修員の学習能力や興味・好奇心の実態に応じた講義をするには、双方向での講義しかないと考えました。つまり、一方的に講義するのではなくて、研修員に質問や意見を聴きながら一体になってお互いに学び合うのです。これを繰り返すことによって、私自身も研修員の求めているニーズを理解し、それに対応した研修が出来るようになり、評価も良くなりました。

最近、講師の評価として私が体験したことを記述したいと思います。私は、現在、大学で講義をしていますが、ここでも前期、後期毎に学生の評価を受けています。また、中小企業大・直方校でも講師をしていますが、「よく理解できた」「大変参考になった」の評価項目で[良いが45%以上][ある程度良いを含めて90%以上]に満たない講師は、継続できないと言う厳しいルールもあります。

これらは、何れも「顧客満足評価」です。私も顧客満足の向上に向けて多様なニーズに対応出来るよう研鑽したいと思います。そして、途上国の研修員の皆さんに役に立つ研修をすることが、私にとっての国際貢献だと信じ、今後も活動を継続したいと思います。



筆者:前列左端

講師の研修への熱意



K I T A 研修コースの紹介

(目的とねらい)



JICAコース『エネルギー管理』

コースリーダー 見学 克美

平成元年度に始まったこのコースは、
集団研修コースとしてエネルギー管理に関する研修(32カ国・100名の研修員)を実施してきましたが、平成14年度からはもっと効率的に研修を進めるため国別研修として中・東欧地域の国々の研修員を対象とするコースになりました。現在、中・東欧諸国はEU加盟の条件でもある企業の民営化・分社化等市場経済への移行に努力しています。研修員の国のうちいくつかは今年5月にEUに加盟しましたし、残りの国も将来の加盟をめざして改革に邁進しています。これらの国々にとって環境保全を伴う持続可能な経済発展とそのためエネルギーの確保・効率的な使用・需給競争力強化がいっそう重要な問題になっています。

このコースでは、こういう点を考慮した講義と工場見学による研修を実施していますが、日本の経済発展とそれに伴う公害・エネルギー・環境の問題を技術的・歴史的・

地理的考察を加えて研修員と一緒に考えながら研修を進めることにしています。また、その時に必ず研修員それぞれの国の事情・現状とも対比させることにしています。なるべく講師の一方的な説明でない進め方なので研修員からの質問や発言が多く研修員間の討議になることもありますが、その方が研修の成果はずっと高いようです。

コースリーダーとしての講義や日常の接触では単にエネルギー管理や環境管理に関する事項だけでなく日本の歴史・地理・文化・物の考え方等についても積極的に話すことにしています。また情報もなるべく多く与えるようにしています。これに対する研修員からの反応によって日本とはかなり異なった考え方の多いことにも気づかされるのです。

研修員がこのコースで得たいいろいろな成果を自分の業務に活用しそれぞれの国の発展に少しでも寄与できるようにしなければいいと考えています。



JICAコース『クリーナープロダクションのための保全管理』

コースリーダー 松井大三郎

1. コース設定の背景

現在、先進国、発展途上国を問わず各種工業施設の拡大・近代化が進行していますが、それにつれて生態環境の変化、埋蔵資源の枯渇化が進んでいます。なかでも発展途上国での生産設備への保全管理体制の立ち遅れは、それらの生産機能が十分に発揮されず、低効率・低生産性の主要因の一つになるとともに地球規模での生態環境の悪化や埋蔵資源の無駄使い(枯渇化)を促しています。

2. コースの目的

発展途上国における各種工業施設の保全管理体制が、生態環境・埋蔵資源の保全にも十分に配慮された最適システムに設定されて、その設備効率ひいては工場の生産性を高め得ることを一義的な目的としています。また一方、数か月間、TPOを共有する世界各国からの研修員を通じて、我が国および関連する各国間の国際親善に寄与するよう努めています。

3. 研修の達成目標

- (1) クリーナープロダクションの必要性及び地球の悪化しつつある環境状態を認識。
- (2) 各種の企業特性に適合した保全システムのあり方を習得。
- (3) 設備保全に必要な専門技術、管理技術、改善技法を習得。
- (4) 保全業務に関連する従業員への教育・訓練の不可欠性の認識とその方法を習得(技能実技も体験)。
- (5) 数社の素材・設備メーカーの訪問見学により、保全業務に携わる管理者にとって必要な知見を拡張。

以上のほか、自国では経験できないことを体験させようと配慮しています。そのひとつが、長崎での原爆記念資料館等の被災の様子を見聞させています。米国では当時の爆撃機をわざわざ再製し公開はしても、悲惨な被爆状況の展示は拒否しています。二つ目が、人の能力に頼る保全作業では、従業員の教育訓練は不可欠ですが、それを企画・推進すべき立場の研修員は一般に、自国内では保全技能経験の機会はありません。これを補うために僅かですがそれを体験する時間も設けています。

フィリピン各地へのCP（クリーナープロダクション）指導始まる



フィリピン・セブ市でのCPキックオフ調印
(平成16年4月)

開発途上国援助の一環として、国際協力銀行（JBIC）が進めている海外融資に「ツーステップ・ローン」があります。現地の金融機関を経由して適切な企業へと、二段階で貸し付けが行われるシステムになっているのでそう呼ばれています。

今般、メトロセブ地区（マニラに次ぐ大都市のセブ市とその近郊）にある中小企業を対象としてCPを促進するために、フィリピン開発銀行（DBP）を経由するローンが企画され、その融資先が検討されています。KITAはJBICからの要請を受けて、現地企業におけるCPの

推進を指導してゆくことになりました。

去る4月27日、CP推進キックオフの式典がセブ市マリオットホテルでDBPの主催で挙行され、地元の環境管理局、公害防止協会、商工会議所、中小企業などからの代表者約100名が列席しました。KITAからは式典後の講演会にて「北九州市におけるCPの推進」というタイトルで、今日に至る当地での経緯と成果を説明しました。

全体の印象として、現地企業の環境対策への関心は今一歩であり、CPの理解度も決して高くはありません。今後のトレーニングによって普及促進を支援してゆきたいと強く感じました。

これを皮切りに、KITAの特性を活かした現地に役立つ技術指導が、今後展開されてゆくこととなります。

(技術協力部 藤田昌之記)

[国際協力銀行から受託]

中国（大連・重慶）との技術協力事業に関する調査



左側筆者(重慶市人民大会堂前にて)

今回の調査は、この協力事業の中国側窓口であるそれぞれの市の役所と企業を3月20日から約1週間で訪問し、これまで行って

きた技術協力のフォローアップと新たな計画について意見の交換をし、またKITAの保有技術のPRもしました。

具体的には、技術者の派遣ならびに受入研修・セミナーなどのテーマと内容についてミスマッチの無いように心がけて意見の交換をしました。特に重慶市からは多くの要望が出されました。

製造現場の環境対策は訪問した数工場を見る限り、日

本の1960年代の公害最悪時期に近い状態でした。大連の工場では、環境モデル地区の調査で対策案を作り、実現するために借款案件として検討されていましたが、その後の大きな変化の中で具体化が遅れている模様であり、今後の協力の必要性を痛感しました。重慶では、中国側はITに関連のソフト技術レベルの高さとコストの優位性をアピールし、日本企業との提携を期待していました。

今後の専門家派遣と研修生受入内容についてテーマが両者から出され、今後の打ち合わせの中で絞り込む予定です。

今回の訪問では、計画経済から市場経済へ急速に転換している様子や高度経済成長を支える中国のリーダー達の意気込みを肌で感ずることが出来ました。

(技術協力部 川合玄夫記)

[北九州市から受託]

KITA 人事異動

4月1日付
コースリーダー

[前] 寺井 健治
[新] 横山 清

4月21日付
KITA環境協力センター
国際情報課主任 / (市派遣)

[前] -
[新] 柴 郁代

| 編 | 集 | 後 | 記 |

暑い夏、年齢を忘れて途上国の人づくりを支援しています。

北九州市で戦後に持続可能な工業発展を遂げた大きな原因のクリーナープロダクションと環境管理技術で、途上国の持続的な発展を支援することを使命とする

KITAは、研修効果を高める努力を続けています。

その一端を披露していますが、本号の「講師の研修への熱意」欄で、長年にわたって研修員に人気のある講師による「対話型・双方向の講義」の工夫と、「研修コースの紹介」欄で、人材能力が必要な保全業務について、研修員が自国では経験できない保全技能実習を行わせるなど、地味な活動を続けていることを紹介しています。(N)